

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0174700682		
法人名	医療法人社団 柏木内科医院		
事業所名	グループホーム あおば		
所在地	中川郡幕別町札内青葉町311 (電話) 0155-56-7797		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年2月25日	評価確定日	平成21年4月16日

【情報提供票より】 (平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 1 月 5 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	12 人 常勤12人 非常勤 0 人 常勤換算 12 人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り 2 階建ての 1 ～ 2 階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円
その他の経費(月額)	水道光熱費 5,000 円
敷 金	有 (円) 無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 有りの場合 償却の有無 有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円
	夕食 円 おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円

(4) 利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	6 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 90 歳	最低 83 歳	最高 101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医) 柏木内科医院・ 医) 木下歯科医院・ 医) とかちの杜病院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム あおばは、運営母体である医療法人との連携により利用者の健康管理や緊急時に対応できる体制が整っていて、家族の安心に繋がっている事業所である。また、医療法人では家族や第三者にアンケートを実施し、意見や要望をケアに反映させており、管理者は認知症の特徴を理解し日々職員と話し合い、利用者一人ひとりを尊重した生活支援を重視している。出来る事を見守りながら日常生活を豊かに過ごせるように努め、利用者同士もお互いに支えあいながら過ごしている。事業所内は手作りの作品や記念写真が飾られ、穏やかで温かみのある雰囲気作りがなされており、家族の訪問も多くあり、宿泊支援も行なっている事業所である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の課題である、運営推進会議の開催については、事業者・行政・町内会・民生委員・家族代表・管理者・ホーム長などの参加者で構成され3ヶ月に1回の割合で定期的に開催され、サービスの向上に活かされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者及び管理者、職員は、自己・外部評価の意義を理解し、全職員で自己評価を行なっている。それぞれの気づきをミーティング等で話し合い具体的な改善に向け取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 3ヶ月に1度開催されており、事業所側からの一方的な報告に終わることなく構成メンバーの意見や質問に答え、意見交換を通して運営に反映している。又、意見・要望などを家族が話し易い雰囲気づくりに努め、表出された課題は全職員で話し合いサービス向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) お便りを定期的に送付し、日常の暮らしぶりを報告し、事業所行事の案内等をお知らせしている。家族の来訪時や運営推進会議などの機会を通して意見や苦情を伺うと共に、常に家族が気軽に意見を伝えられる様に雰囲気づくりに努めている。また表出された意見については、全職員と話し合い運営に反映させている。連絡を行い詳細に報告を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常的に散歩や買い物で地域の人と挨拶を交わしたり地域行事のお祭りや盆踊りなどには利用者と共に参加している。又、事業所の祭りにも多くの地域住民の参加を頂いたり、更に地域の主婦のボランティアを受入れるなど双方向的な交流を深めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、地域に関かれ、利用者が地域の一員として暮らし続けることを支えあい、安全と安心のサービスの実践に向けての事業所独自の理念を作り上げている。更に、地域密着型サービスの理念を書き入れた理念を事業所内に掲示される事を望む。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者へのサービス提供の中で、職員が話し合いを重ねケアの統一を図り、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的な散歩や買い物で地域住民と挨拶を交わし交流を深めている。町内のお祭りや盆踊りにも利用者と共に積極的に参加したり、事業所のお祭りにも多くの地域住民の参加を頂いたり、更に地域の主婦のボランティアを受入れるなど双方向的な関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び管理者、職員は、自己・外部評価の意義を理解し、全職員で自己評価を行なっている。それぞれの気づきをミーティング等で話し合い具体的な改善に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度開催されており、事業所側からの一方的な報告に終わることなく構成メンバーの意見や質問に答え、意見交換を通して運営に反映している。又、意見・要望などを家族が話し易い雰囲気づくりに努め、表出された課題は全職員で話し合いサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は介護認定審査会の会長として活動しており、町村の担当者とは月1回～2回意見交換を行なっている。経過については管理者等と話し合いサービス向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に便りを送付し、利用者の健康状態や日々の暮らしぶりなど、行事の報告や案内と共に伝えている。又、家族の来訪時には、金銭出納帳の確認と介護計画の同意も頂き、常にきめ細やかな対応がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や運営推進会議などの機会を通して意見や苦情を伺うと共に、常に家族が気軽に意見を伝えられる様に雰囲気作りに努めている。また表出された意見については、全職員と話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職時には、引継ぎの時間を十分に取って、利用者のダメージを最小限に抑えるように配慮をしている。事業所の各ユニット間の行き来は頻繁にあり、利用者への馴染みの関係性重視の姿勢が実践され、ケアの統一が図られている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、研修会・学習会など学ぶ機会を積極的に推進している。他都市の研修には運営者が旅費などを援助し、日々の体験が学びに結びつくよう、働きながらのトレーニングを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所や同時期開所した事業所等との繋がりはあるが、管理者や職員が具体的に交流するまでに至っていない。	○	管理者同士の交流を通じて、地域内事業所のネットワークを作り、学習会や相互訪問活動を通して職員間レベルで交流を持つ事で職員育成やサービスの向上に繋げることを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始に当たっては、管理者が面談し職員と話し合い、本人と家族には事業所見学をして頂き、本人の気持ちを大切にしながら対応に努めている。病院からの入居の場合も家族や関係者の協力の下、徐々に馴染めるように相談をしながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の出来る事を出来る範囲で行なえる様に不足の部分の支援している。調理や食事の準備などの役割を通じて、利用者から学ぶ事も多く共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常生活の中での会話や表情で利用者の希望や意向の把握に努め、家族の来訪時にも情報を頂き、職員間で共有し本人本位に検討し支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、利用者、家族などから意見・要望を伺いアセスメントを基に、全職員でモニタリングを行ない課題を明確にし、一人ひとりに即した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1度のカンファレンスにおいて、全職間で意見を出し合い、利用者、家族からの意向や要望を確認し、現状に即した介護計画の見直しが行なわれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、医療法人の受診や往診など柔軟に対応している。関連の事業所と交流し収穫祭に参加したりイチゴ狩や菊まつり等利用者の希望に添うように支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療法人が隣接しており、院長や看護師との連携は緊密であり、往診時も気軽に相談出来る関係を築いている。また利用者や家族の希望・要望に応じ、また状態変化時にも適切な医療を受けられる支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の方針について母体医療法人の医療関係者と連携し、早い段階から利用者・家族・医師と話し合いを持ち方針の共有を図り、終末期に向けての支援体制が整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳や誇りを損なわないように対応し、トイレ誘導時にも羞恥心やプライバシーの配慮をしている。記録の取り扱いについても注意徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者本意のペースを尊重し、買い物や散歩、食事の準備や調理などの役割も本人の希望に添って支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立から調理・片付けなどはその日の利用者の状況に合わせ、意志や気持ちを大切に職員と一緒にこなしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日を決めているが、利用者の希望や状態によりその限りではなく、個別に合った支援をしている。シャワー浴、清拭を含めた一連の入浴において、声かけや対応などに配慮をし、工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を活かした役割として食事の準備から後片付け、趣味の作品作りなどを通して楽しみごとや気晴らしに繋がる支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や買い物など一人ひとりの希望や状況に応じた外出支援に取り組んでいる。又、家族の来訪も多く、家族との外出を進め、出来るだけ戸外に出かけるように支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者と職員は玄関に鍵を掛けることの弊害を理解し鍵の掛けないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下に、職員と利用者が一緒に避難訓練を行なっている。訓練では避難経路の確認と消火器に使い方、夜間を想定した訓練も行なっている。地域へは運営推進会議を通して協力を呼びかけ、双方で協力し合う働きかけを行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は記録し把握されている。一人ひとりの健康状態に合わせて、きざみ食やミキサー食など工夫がなされ支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は台所や事務所からも全体が見渡せるように配慮されており、随所にくつろげる居場所がある。陽光が明るく射し、不快な音も無く、生活感や季節感を取り入れ心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族と相談し使い慣れた筆筒やテレビ等を持ち込み、家族の写真を飾りつける等、利用者の意向に配慮され心地よく過ごせる居室になっている。家族の宿泊がある時は支援をしている。		

※  は、重点項目。